

浅茅生の小野の篠原

一面月
戻り
折れる

しのぶれどあまりく
なごか

連綿

人の恋し

中一三五

浅茅生の小野の篠原の「忍」ではありませんが、私の心の中にある恋の気持ちに「忍び」がはいっています。篠原の葉に置く露が、いっばいになり、満ち溢れるように、どうしてこんなあなたに恋しいのか。参議等（三十九番）